

Slovenia Monthly *October 2016* vol.2-no.10

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2016年11月8日



～10月の主なポイント～

政治：ツェラル首相が訪日し、安倍総理と会談、皇太子殿下が御接見。

ツェラル首相が欧州理事会に出席し、国境管理は現状に即して実施されるべきと主張。
パホル大統領、現職大統領として初めてアルゼンチンを訪問。

経済：経団連訪欧ミッションがスロベニアを訪問し、ツェラル首相及び経済大臣等と会談。

安川電機、欧州における産業用ロボット新規製造拠点をスロベニアに設置する旨発表。
2015年スロベニアへのFDIが前年比13.4%増加。日本からのFDIも2倍以上の大幅増。

軍事：国防省がポーランド・バルト地域へのNATO軍配備のため約50名の兵士の派遣を決定。

社会：第21回リュブリャナマラソンが開催され、2日間で2万3700人が参加。

政治

【内政】

●ツェラルツ保健大臣に対する解任動議の否決【18日】

イゾラ市総合病院での拳銃使用殺人事件(8月号ご参照)及び医療制度改革の遅れ等を理由に提出された、ツェラルツ保健相に対する解任動議の投票が国民議会で行われたが、連立与党の反対により同解任動議は否決された。これを受け、ツェラル首相は、政府は医療制度の改善に向けたビジョンを有しており、ツェラルツ保健相は同ビジョンの実現に必要な経験とノウハウを有している旨述べた。

●法人税引き上げ案の下院での再可決【19日】

国民議会(下院)は、小規模税制改革(9月号ご参照)の一部である法人税の17%から19%への引き上げ法案が国民評議会(上院)で否決されたことを受けて同法案の再審議を行い、再可決した。

雇用者団体は、本法人税の引き上げは経済への更なる負担となり発展を妨げる旨主張しているが、与党議員は、所得税引き下げによる歳入の減少は1億600万ユーロに及ぶと指摘し、所得税率の引き下げによる財政赤字の拡大を避けるために法人税引き上げが必要である旨主張した。

●スロベニア東部国境でのフェンス設置開始【21日】

シュペンガ内務次官は、新たな大量の難民流入に備え、クロアチアとの国境通過地点2箇所(ハードワイヤー・フェンス設置を開始した旨発表した。設置箇所はプトウイ市南部のグルシュコウイエ(Gruškovje)及びブレジツェ市近郊のオブレジェ(Obrezje)の国境地点で、同地点はレーザーワイヤー・フェンスを含む一時的な「技術障壁」が計画されていた地域である。また、同内務次官は、近日中に昨年の経験から大量の難民流入が予測される他の重要地域においてもフェンスが設置される旨述べた。

現在までに、670キロにわたる対クロアチア国境のうち、183.5キロにわたって、フェンス等の技術障壁の設置が完了している。

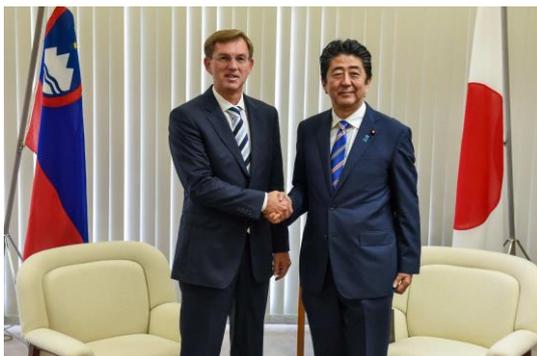
【外政】

●ツェラル首相の訪日【1日～4日】

ツェラル首相は、スロベニアの首相として8年ぶりに日本を訪問し、安倍総理との日・スロベニア首脳会談、皇太子殿下への御接見、大島衆議院議長との会談、塩崎厚労大臣をはじめとする日・スロベニア友好議連との会談及び経団連との朝食会等を行っ

たほか、2日に京都で開催されたSTSフォーラムにて基調講演を行った。

日・スロベニア首脳会談において、両首相は両国の友好関係を確認し、特に協力に向けた余地が大いにある経済分野での関係強化を要請した。ツェラル首相は、日本によるスロベニアの発展に資する投資の継続及び日本人観光客の増加に対する期待を表明した。また両首相は、国際機関や安全保障問題についても協議し、海洋法を含む国際法の遵守並びに紛争の平和的解決を求めた。



(写真: スロベニア政府広報局)

●パホル大統領とアーデル・ハンガリー大統領の会談【5日】

パホル大統領は、スロベニア国境近くのハンガリー一の町フェルショーセルネクにてアーデル・ハンガリー大統領と会談を行った。会談では難民問題が取り上げられ、パホル大統領は、EUは難民再移転割り当てをめぐって、共通の政策により課題に対処するか、国境を閉じて各国の政策を重視するか意見が分かれているとしてスロベニアとハンガリー間での難民割り当てに対する立場の違いを指摘し、この会談が共通の欧州の未来へ戻る大きな一歩となると信じている旨述べた。

●エリヤヴェツ外相のアフガニスタン支援に関するブリュッセル会合出席【5日】

エリヤヴェツ外相は、「アフガニスタン支援に関するブリュッセル会合」に出席し、135億ユーロにのぼる対アフガニスタン支援パッケージの一環として、スロベニア政府による9万ユーロの支援を表明した。同外相はスピーチにおいて、アフガン政府による改革努力を評価しつつも、改革実施に向けたコミットメントの履行継続が支援の前提条件であるとの考えを述べ、昨年バルカンルートを通じてEUに到来した難民の中では、アフガニスタン人が第2番目に多かった旨指摘した。

アフガニスタンには2003年よりスロベニア軍部隊が派遣されており、現在、Resolute Support Missionに7名の軍人が派遣されている。

●エリヤヴェツ外相のボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)訪問【10・11日】

エリヤヴェツ外相は2日間の日程でBHを訪問し、ツルナダクBH外相と会談を行った。両外相は共同記者会見にて、様々な分野における二国間の良好な協力関係を評価し、政治及び経済関係の今後の強化に向けた双方の関心を確認した。エリヤヴェツ外相は、BHのEU加盟に向けた取り組みを歓迎する一方で、改革プロセスへの一層の努力を要請し、スロベニアは同改革プロセスへの支援を引き続き行う旨強調した。

またエリヤヴェツ外相は、シャロヴィッチBH海外貿易大臣との間で、第三国市場における経済協力に関する共同声明及び観光分野での協力に関する覚書に署名した。

●政府のCETAへの署名承認【13日】

ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、EU・カナダ間の自由貿易協定(CETA)への署名を承認する旨発表した。一方でスロベニア政府は、他の加盟国と連携し、特に水の供給、国家と投資家間の紛争裁定におけるICS(Investment Court System)の導入及び食糧の安全に関する修正を保証する旨述べた。

一方で、同大臣は本協定の署名後に議会による批准が必要であり、最終的な判断は議会に委ねられるとした。

●パホル大統領のバチカン訪問【17日】

パホル大統領はバチカンを訪問し、フランシスコ法王への謁見において、国際情勢、EUをめぐる欧州情勢及び青少年問題について意見交換を行った。両者は、EU創設の理由を理解していない青少年に対し、歴史的経緯の理解を広め、融和、共生及び平和という観点から将来のEUの重要性を説明することが重要であるという点で一致した。パホル大統領は、「フランシスコ法王は、宗教指導者としてだけでなく、国家元首としても国際社会において重要な役割を果たしている。同法王は、融和、共生及び平和を提唱し、こうした価値観はスロベニア人にとっても重要である」旨述べた。

●ジュニダル内相とスロバキア及びハンガリー内相との会談【18日】

ジュニダル内相は、カリナク・スロバキア内相と会談を行い、スロベニアへの難民流入に際するスロバキアの支援に謝意を表明するとともに、良好な二国間関係を確認し、スロベニアのシェンゲン規則の継続的な実施とEU域外国境の効果的な管理への取り組みについて説明した。カリナク内相はシェンゲン規則の重要性につき合意したものの、EUの連帯は難民再移転割り当てだけでなく様々な手法で示されるべきである旨述べた。

ジュニダル内相は、ピンテル・ハンガリー内相との会談においても同様にスロベニアの立場を説明し、スロベニアは小国であるが、難民再移転割り当てを支持している旨述べた。

●ツェラル首相とバルニエ欧州委Brexit担当首席交渉官との会談【19日】

ツェラル首相は、スロベニアを訪問中のバルニエ欧州委Brexit担当首席交渉官と会談し、EUは英国との交渉にあたり、統一され一貫性のあるアプローチを取っていく必要があるという意見で一致した。ツェラル首相は、統一市場の維持に際する4つの移動の自由すべての継続及び現行の予算規模の確保を要請した。また、ツェラル首相は、Brexitの交渉と同時並行でEUの将来に関する議論を行うべきであり、BrexitはEUの一体性及び権限強化に向けた機会と捉えるべきであるとの立場を強調した。

●ツェラル首相の欧州理事会出席【20・21日】

ツェラル首相は、ブリュッセルにて開催された欧州理事会に出席し、同理事会では主に難民・移民問題について議論された。同首相は、今次理事会の結論文書に「域内国境のないことを原則とするシェンゲン規則への回帰」の文言が含まれたことを受け、本結論文書は明示的に国境管理が「一時的な」ものであることを示しており、国境管理が行われている地域においては、現状に応じた措置がとられるべきである旨述べた。

またツェラル首相は、ケルン・オーストリア首相と本問題につき議論し、ケルン首相はオーストリアの一時的な国境管理について、現在スロベニアを通して難民が流入していない事実等を反映し、現状に即した措置をとる旨保証した。

●パホル大統領のアルゼンチン訪問【20日～23日】

パホル大統領は、現職大統領として初めてアルゼンチンを公式訪問し、マクリ・アルゼンチン大統領と

会談を行った。両大統領は、二国間関係強化、EU・アルゼンチン関係、治安、気候変動及び人権問題等について意見交換を行い、二国間関係は極めて良好で多岐にわたるものであると評価した。2015年の両国間の貿易高は2600万ユーロで、その4分の3がスロベニアからの輸出であり、パホル大統領はスロベニア企業がアルゼンチンとの間のビジネスに関心がある旨述べた。また同大統領は、主に第二次大戦後に約3万人のスロベニア人がアルゼンチンに移民したことに関し、アルゼンチンが困難な時期に移民を受け入れたことに謝意を表明した。



(写真:スロベニア大統領府)

●スロベニア・セルビア合同閣議の開催【24日】

スロベニア・セルビア間の合同閣議がセルビアで開催され、ツェラル首相及びブチッチ・セルビア首相は、旧ユーゴの資産承継上の微細な問題は依然として存在するものの、両国の良好で友好的な関係を賞賛した。ブチッチ首相がセルビアのEU加盟努力に対するスロベニアの支持に謝意を表明したのに対し、ツェラル首相は、EUのドアが西バルカンに開かれたものとするよう努力していく旨述べた。

ツェラル首相は、難民問題への対応や西バルカンの安定におけるセルビアの重要性を強調し、難民の西バルカンルートに位置する非EU加盟国の声を聞くようEU諸国に働きかけることを約束した。

また、両首相は経済関係強化の重要性で合意したほか、青少年の雇用問題、エネルギー、古い炭鉱の閉鎖、医療、交通インフラ、電子政府、スポーツ交流等についても意見交換を行った。

経済

【マクロ経済・統計】

●IMF経済観測、本年GDP成長率見通しを2.3%に引き上げ【4日】

IMFは秋期経済観測を発表し、本年のGDP成長率見通しを春期予測の1.9%から2.3%まで引き

上げる一方、2017年のGDP成長率見通しを2.0%から1.8%に下方修正した。また、今後5年間の平均での成長率は1.5%としている。

また、消費者物価指数は昨年のマイナス0.5%に続き、今年もマイナス0.3%のデフレと予測されているものの、来年は1%のプラス成長となる見通しである。今後5年間では平均で約2%と見込まれている。

●2015年財政赤字の2.7%への修正【20日】

スロベニア統計局は、昨年の財政赤字が当初の発表を8700万ユーロ下回る10億300万ユーロとなり、対GDP比では2.9%から2.7%まで下方修正される旨発表した。累積公的債務は対GDP比83.2%で変更はない。一方で、今次下方修正を受けて、EU財政規律に従って、2016年の財政赤字目標は対GDP比2.2%で変更の必要はないものの、2017年の財政赤字目標を当初の対GDP比1.6%から1.3%まで進める必要性が生じた。

●ビジネスのしやすさランキング【26日】

世界銀行は、2017年に向けたビジネスのしやすさランキング(Ease of Doing Business Ranking)を発表し、スロベニアは昨年より順位をひとつ落とし30位を獲得した。項目ごとでは「国境を越えた貿易」で最高位となる1位を獲得した(注:他のEU加盟国も同項目で同率首位)。「少数投資家の保護」では昨年より順位を2つ落とししたものの9位を獲得し、「破産の解決」では昨年と変わらず12位を獲得した。

一方で、「建設許可への対応」では昨年より9つ順位を落として第80位となり、「借り入れのしやすさ」では7つ順位を下げ最も低い133位となった。

中東欧地域では、スロベニアはポーランドの24位、チェコの27位に次ぐ3番目で、旧ユーゴ諸国内ではクロアチアの43位を上まわり最高順位を獲得した。

スロベニアに迫る! ③

スロベニアの海外直接投資(FDI)と対外直接投資(EDI)

スロベニア中央銀行は、2015年のスロベニアへの海外直接投資(FDI)及びスロベニアによる対外直接投資(EDI)に関する報告書を発表しました。

2015年におけるスロベニアへのFDI総額はストック値で対前年比13.4%増となる115億6000万ユーロを記録し、新規投資の主要な投資分野は、金融、保険及び不動産業でした。投資の80%以上はEU加盟国からの投資で、オーストリアからの投資が最も多い35億4500万ユーロで全体の30.7%を占

め、日本からのFDIは7100万ユーロ(全体の0.6%)で前年より2倍以上に増加しました。

一方、2015年におけるスロベニアによるEDI総額はストック値で対前年比2.4%増の54億6000万ユーロとなり、EDI総額の60%超は旧ユーゴ諸国向けでした。

スロベニアへの主要投資国(FDI上位5カ国)

順位	国名	総額(百万ユーロ)	割合(%)
1	オーストリア	3,545,2	30,7
2	スイス	1,313,3	11,4
3	ドイツ	1,083,1	9,4
4	オランダ	1,019,4	8,8
5	クロアチア	938,3	8,1
	日本	71,1	0,6
	合計	11,564,5	100

スロベニアの主要投資先(EDI上位5カ国)

順位	国名	総額(百万ユーロ)	割合(%)
1	クロアチア	1,448,8	26,5
2	セルビア	996,1	18,2
3	ボスニア・ヘルツェゴビナ	480,5	8,8
4	マケドニア	396,4	7,3
5	ロシア	305,3	5,6
	日本	2,3	0,04
	合計	5,460,6	100

【金融・企業関係】

●自動車部品メーカーCimos社の民営化【14日】

銀行資産管理会社(BAMC、いわゆるバッドバンク)は、スロベニア最大の自動車部品メーカーであるCimos社がイタリアの投資ファンドであるPalladio Finanziaria社に1億1千万ユーロで売却される旨発表した。契約は既に締結されており、売却手続きは明年第1四半期にも完了する見込みである。

●経団連訪欧ミッションのスロベニア訪問【17日】

経団連訪欧ミッションが19年ぶりにスロベニアを訪問し、ツェラル首相表敬、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣及びガシュペルシッチ・インフラ大臣をはじめとする政府要人との会談を行い、スロベニア政府及びスロベニア商工会議所により開催されたビジネスセミナーに参加した。

ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、昨年、物品の貿易が1億1500万ユーロ、サービス貿易が2700万ユーロを記録し、FDIは2倍以上に増加した旨指摘し、観光分野を含め、経済関係発展に向けた多くの余地がある旨述べた。



(ビジネスセミナーの様子)

●安川電機新規ロボット製造拠点の設立決定【20日】

リブニツァ市にて産業ロボット製造工場を操業している安川電機は、プレスリリースにて、産業用ロボットの欧州における新たな製造拠点をスロベニアに設置することを決定した旨を発表した。

ツェラル首相は、今回の誘致成功はスロベニアが非常に困難な投資誘致競争に勝利できることの証明であり、同社の生産拠点誘致に向け多大な努力をしてきたこともあり非常に嬉しい旨述べた。

また当地日刊デロ紙は、今回の安川電機の投資は、スロベニアが必要とする、投資家が新たな工場を設置し、雇用を創出し、物作りを行うグリーンフィールド投資であり、本件のような高い付加価値をもたらすハイテク分野での投資こそ、将来におけるスロベニアの発展及び繁栄を確保していくものであると評価した。

軍事

●スロベニア軍のラトビア派遣決定【27日】

ブリュッセルにて欧州防衛相会合が開催され、スロベニアからビズヤク防衛次官が出席した。同次官は、会談後、本年7月に決定したポーランド及びバルト三国へのNATO軍の配備について、スロベニアより最大50名をラトビアに派遣する旨表明し、司令官を務めるカナダ及び他の参加国と協議し2017年5月までに具体的な派遣人数を決定する旨述べた。

社会・文化・スポーツ

●リュブリャナマラソンでケニア人選手が表彰台を独占【30日】

今年で第21回目となるリュブリャナマラソンが開催され、男子は2時間9分16秒でケニアのラバン・ム

タイ選手が優勝し、2位及び3位もケニア人選手が獲得して表彰台を独占した。女子では2時間29分31秒で同じくケニアのピュリティ・チャンゴニー選手が優勝した。スロベニア人では、男子はアレシュ・ジョンタル選手の11位、女子はヘレナ・ヤヴォルニク選手の7位が最高であった。

リュブリャナマラソンの参加者は年々増加しており、1996年の第1回大会では670人であったが、今年29日のキッズ・レースに8500人の子供達が、30日の10キロ、ハーフマラソン及びフルマラソンには1万5200人が出場し、参加者は合計で2万3700人に達した。

スロベニアに迫る③

スロベニア発スーパーハイエンド・スピーカー

スロベニアのZP Speaker Lab社は、知る人ぞ知る最高級のスピーカーメーカーです。最高品質の材料を使用し、熟練の職人達の手作業で丁寧に組み立てられるスピーカーは心に響く本物の音色と表現力を有する「憧れの名機」として世界中の愛好家をとりにしています。

同社は1983年にズヴォネ・ラスポル(Zvone Raspor)氏により設立され、同氏の30年以上にわたって1万5000機のスピーカーやオーディオの修理で培った確かな技術を元に、顧客の要望に応えるハイエンドな商品を提供しています。今秋には他の商品より価格を抑えた「ZR Entry Line」(15万8000円～)がラインナップに加わりました。興味をお持ちの方は同社ホームページをご覧ください。

ZP Speaker Lab社ホームページ:

<http://www.zr-speakerlab.si/products.html>



(写真: ZP Speaker Lab社ホームページ)

発見！スロベニア

姉妹都市交流

～新潟県妙高市とスロベン・グラデッツ市～

新潟県妙高市とスロベン・グラデッツ市の間で行われている姉妹都市交流は、日本・スロベニア間で正式な協定を結んでいる姉妹都市関係としては唯一のもので、その交流の歴史は、「妙高市」に改称される前、「新井市」であった頃の1990年代にまで遡ります。

交流のきっかけは、スロベニア人スキー選手(サラエボ冬季オリンピック・アルペンスキー大回転銀メダリスト)のユーリ・フランコ氏が、新潟県新井市(当時)のスキー場建設に協力し、1996年にスキーリゾート施設「新井リゾート」でスロベニア文化を紹介する行事が開催されたことです。この出来事を発端に、1999年にはスロベニアからの訪問団を迎え、同施設で「スロベニア・フェスティバル」が大々的に開催され、児童らによる絵画交換、親善パーティー等も実施し、両都市間の交流はさらに深まることになります。

そして、2001年。新潟県新井市(当時)とスロベン・グラデッツ市との間で正式な姉妹都市協定が締結されました。2005年には、新井市・妙高高原町・妙高村が合併し、自治体の名称も「妙高市」に改称され、姉妹都市協定も引き継がれました。

今年で15周年を迎える姉妹都市交流は今もなお活発に行われており、両市長の相互訪問をはじめ、高校生訪問団が毎年それぞれの国を訪れてお互いの文化を体験するなど、その関係は益々深くなっています。



「雪化粧した山々」(妙高市観光協会 HP)



「スロベン・グラデッツ市の山岳風景」(同市HP)



入村妙高市長のスロベニア訪問

(前列左より入村妙高市長、チャス・スロベン・グラデッツ市長、後列、福田大使(2016年10月、大使公邸にて))

在スロベニア日本国大使館

電話:+386-1-200-8281 又は 8282、Fax:+386-1-251-1822、Email:info@s2.mofa.go.jp

Web:http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

当館のフェイスブックでは、スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせやレポート、スロベニア事情等の情報を随時発信しております。「いいね！」ボタンで当ページのフォローをよろしくお願いいたします。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

【文化行事のお知らせ】

●日本映画祭2016

「音楽の力」をテーマに、音楽にまつわる日本映画4作品を上映します。いずれも日本語音声・スロベニア語字幕付。

◇場所:キノ・ベジグラッド(Kino Bežigrad)住所:Linhartova cesta 11, Ljubljana

◇上映作品:

11月 7日(月) 17:30 楽隊のうさぎ(2013年/97分)

11月 8日(火) 17:00 アブラクサスの祭(2010年/113分)

11月 9日(水) 17:00 くちびるに歌を(2015年/132分)

11月11日(金) 17:00 マエストロ!(2015年/129分)

●演劇団体マキーフン「日本むかしばなし」

「スロベニアで暮らす子供達に日本の昔話を届けたい。」そんな思いから立ち上げた演劇パフォーマンスが、師走のリュブリャナで開催されます。この機会にご家族、ご友人を誘って、日本の昔話に触れてみませんか。

◆子供・親子向けの部

日時:12月3日(土)及び4日(日)いずれも午前10:00開演

会場:Slovenski Gledališki Inštitut(住所:Mestni trg 17, Ljubljana)

演目:「三枚のお札」「サルカニ合戦」ほか

入場無料 ※終演後に、親子で楽しめるワークショップも開催!

要予約(Ms. Sandra Jenko Email: sandra.jenko@slogi.si もしくは TEL: 01-241-5818)

◆大人向けの部

日時:12月初旬(後日、当館のフェイスブック等で告知予定。)

会場:Klub Daktari(住所:Krekov trg 7, Ljubljana)ほか。

演目:「三枚のお札」「鶴の恩返し」ほか

§ 出演者:美月泉、藤井咲有里、西村壮悟(いずれも新国立劇場 演劇研修所修了生)

§ 音楽:小島奈津子

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

たびレジには「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●すり被害が急増しています！

最近、リュブリャナ中心部にて、日本人観光客のすり被害が非常に多く発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、フェスティバル会場周辺、リュブリャナ鉄道駅周辺、一般のレストラン内、宿泊ホテルのレストラン内などです。

貴重品は背負ったカバンには絶対に入れないようにし、何か異変を感じたらすぐに確認してください。